

桑園あそび場プロジェクト



子どもの自由な遊びの環境をつくりあげている桑園【現地レポート】

イチョウの紅葉が見頃だった11月、桑園地区の中心にある「桑園公園」に地域のたくさんの子どもたちが集まりました。山の斜面では子どもたちがコロコロキットの組み立てに一生懸命、前の日の雨でできた水たまりでは泥遊び。一画ではコマ回しやけん玉遊び。大きいイチョウの木の周りでは「モンキーブリッジ」(綱渡り)や滑車ロープにコチョコチョ、ロープを揺らしたり飛び跳ねたり、楽しい笑い声があふれていました。

企画しているのは、子どもが自由な発想で楽しめる屋外の遊び場づくりを地域の大人で作ろうと集まった有志団体「桑園あそびばプロジェクト」。子どもの健全な育成を図るため、また地域交流の場として、「あそびば桑園」という子どもたちが自由に外遊びをする企画を月に1回、主に桑園公園で開催しています。

桑園エリアは、再開発が進んで、変化が激しいエリア。色んな歴史も絡んでいて、昔からの住宅地でありながら、桑園駅前には大型ショッピングモールがあり、マンションも多く、市立札幌病院、古くからの繊維問屋のほか、北海道大学の農場や植物園、知事公館、札幌競馬場など緑が身近にあるエリアでもあります。新旧世代が交わるなか、町内会活動も盛んで、札幌市の中でも人口が増え、これから子育てを始める若い世代の人口も増加傾向にある地区です。

「桑園あそびばプロジェクト」事務局の寺坂崇（てらさか たかし）さんは南区の真駒内で、閉校した小学校を使った常設の遊び場を企画・運営していました。当時、自宅前の桑園公園で子どもたちが遊具のある場所に密集して遊んでいる様子を見て、あまり使われてない芝のエリアで何かできることがないだろうかと考えていました。桑園の町内会の班長になったことをきっかけに、「遊び場を使った活動をしましょう！」と地域の方々と一緒に「桑園あそびばプロジェクト」の企画を始めたそうです。

この取り組みは「プレーパーク」という子どもの自由な遊びの環境を保障する活動のひとつ。地域として、子どもの気持ちや、やりたいことを尊重するという考え方で、名前がついていない遊びで遊ぶのもよし。大人は「ねらい」を示すといったかかわり方をしていきます。こうした場所が増えていくと、「遊び」も変わっていくかもしれませんね。

他にも、子どもたちが地域の施設や店舗を回るウォークラリー、桑園のまちを歩いて楽しもう！というキャンペーン「桑園おさんぽ日和」も行われています。遊び場を非日常のイベントではなく、日常の景色として桑園につくろう！という動きの今後が楽しみです！

#2022年10月取材

#現地レポート

#桑園あそびばプロジェクト

#桑園公園

#さっぽろ

#あそびば桑園

#桑園おさんぽ日和

#プレーパーク

#プレーパークさっぽろ

住所 札幌市中央区北7条西18丁目4
電話番号 080-1973-1349
URL <https://soenasobi.blogspot.com/>

<スポットを紹介している人>

金 貞姫 (キム ジョンヒ)

韓国大邱生まれ、2005年から札幌に暮らしている。街を歩くのが好きです。そして、そこで暮らすたくさんの人の生活をみるのが好きです。

●紹介しているスポット・ルート

札幌市北3条広場、大五ビル、桑園あそび場プロジェクト、まちを駆け巡るお弁当屋さんが切り取った風景